

平成20年度学校評価報告書 〔金光大阪高等学校〕

次のとおり、学校評価を実施しましたので報告します。

1. 実施要領

(1) 教職員による自己評価

ア 評価対象90人(中学・高校教員、事務職員) 別紙「自己評価に関するアンケート」参照
内訳 教諭・常勤講師65人 非常勤講師16人 事務職員9人

イ 実施期間 平成20年12月9日より同月18日まで

ウ 回答者 90人 別紙「自己評価に関するアンケート」参照

エ 回答率 100% 別紙「自己評価に関するアンケート」参照

オ 実施方法 アンケートによる個人回答調査

(2) 平成20年度学校評価の実施にむけての経緯

- ア 平成20年11月5日学校評価委員会設立
構成員 管理職(校長・副校長・教頭) 教務部長 生徒指導部長 進路指導部長
学年部長(中学・高校一年・高校二年・高校三年) 事務長 入試広報部長
13名
- イ 学校評価計画書(様式第一号)の作成
- ウ 実施にむけての日程決定
平成20年12月9日職員会議で教職員に対して実施要領の説明
- エ 平成21年1月7日 学校評価委員会自己評価の集計及び分析検討改善項目の確認
- オ 平成21年1月28日学校評価委員会、改善項目に関する改善方策と学校評価報告書の作成

2. 自己評価結果

教職員の自己評価に関するアンケート集計結果の肯定的評価(よくあてはまる・ややあてはまる)の75%をA評価とした。

B評価は50%以上、C評価は25%以上、D評価は25%未満とした。B・C・D評価を改善項目とし次年度への改善方を学校評価委員会で検討した。

評価項目	評価指標		評価	評価者(数)
1. 教育課程 学習指導〔各教科等の授業の状況〕	1	生徒の授業についてのアンケートをもとに、授業方法の改善や工夫をしており、授業の質を高めている。	A	教員 〔73/76人〕
	2	生徒の学習効果があがるように、家庭学習の習慣や教科ごとの学習のし方について指導している。	A	教員 〔62/73人〕
	3	補習や進学講習について、生徒にとって魅力あるものにするための工夫をしながら取り組んでいる。	A	教員 〔69/72人〕
	4	到達度の低い生徒に対して、意欲や興味・関心を引き出す工夫をしている。	A	教員 〔61/76人〕
	5	学習意欲の高い生徒に対して、さらに伸ばす指導の工夫をしている。	A	教員 〔74/76人〕
	6	生徒に対して情報化社会に必要な能力を身に付けさせる指導を行っている。	A	教員 〔58/76人〕
2. 教育課程 学習指導〔教育課程等の状況〕	7	文化祭や体育大会などの行事に、生徒が意欲的に取り組めるよう努めている。	A	教員 〔71/78人〕
	8	入学式や卒業式などの学校行事について、人生の節目としての意義を大切に、感動のあるものにするように努めている。	A	教職員 〔84/87人〕
	9	部活動の意義を重視し、より多くの生徒が活動出来る態勢を整えている。	A	教職員 〔79/87人〕
	10	生徒の人権を尊重し、人権の侵害や差別意識の助長を許さない学園づくりを進めている。	A	教職員 〔78/83人〕
3. 進路指導	11	生徒にとって必要な進路についての情報を提供し、目的意識を固めるよう努力している。	A	教員 〔75/78人〕
4. 生徒指導	12	生徒が通学できることに喜びを感じる学園づくりに励んでおり、欠席や遅刻の防止にも配慮している。	A	教員 〔74/78人〕
5. 生徒指導 〔生徒の人格的 発達のための指導の状況〕	13	挨拶できることを大切に、基本的な生活習慣の定着とマナー向上を図っている。登下校時の指導も行き届いている。	A	教員 〔74/78人〕
	14	放縦な生活態度を認めず、服装や頭髪指導においても模範順守を求めており、ほぼ満足いく状態にある。	A	教員 〔74/77人〕
	15	思春期にある生徒に対して必要な知識や行動力を身につけさせる指導を行っている。	A	教員 〔67/78人〕
6. 保健管理	16	生徒の健康状態を把握することに努め、衛生や学習環境の安全についても配慮している。	A	教員 〔71/78人〕
7. 安全管理	17	事件・事故が発生した場合の迅速な対応について、平素から共通理解ができており、緊急事態に対応できる。	A	教職員 〔81/87人〕
	18	生徒のプライバシーを尊重しており、個人情報の管理にもマニュアルを定めるなど特段の配慮をしている。	A	教職員 〔82/88人〕
8. 研修〔資質向上の取り組み〕	19	校内で他の教員の授業を見学したり校外での研修会に参加して、授業方法等について検討する機会を持っている。	B	教員 〔54/78人〕
9. 情報提供	20	教育活動への理解と協力を得るために、学校発信の情報提供を行うと共に、保護者からの疑問や質問にも答えている。	A	教職員 〔79/85人〕
10. 保護者、地域 住民との連携	21	定期的な懇談以外に、電話連絡や家庭訪問をするなど保護者との連携を積極的にすすめている。	A	教員 〔74/77人〕

3. 自己評価の結果、改善が必要とされる評価指標と改善方策

評価項目	8 研修(資質向上の取り組み)	評価	B
評価指標	校内で他の教員の授業を見学したり校外での研修会に参加して授業方法等について検討する機会を持っている。		
改善方策	授業に関する校内の研修に関しては、各教科の研究授業を実施すると共に平常の授業を見学しあい、より良き授業をめざしての検討に取り組むこと。平成20年度、普通クラス五教科(国社数理英)の担当者に命じて実施したが不十分と評価の判定が出たため平成21年度は、見学回数を増加させたり、レポート提出等強化策を検討している。又校外の授業に関する研修に関しては、特進の授業担当者を指示して参加に取り組んで来た。今後も強力に取り組んでいきたい。		

4. 評価結果の公表方法

手 段	時期	対象
本校の保護者広報誌(育友会広報誌)「はぐくみ」に評価結果発表	3月	中学、高等学校の全保護者

5. 学校長所見

21項目にわたる本校の教育活動全般に肯定的評価[A]が出ていることは、年度初めに示した教育方針通りに学校運営方針がなされていることと自負している。更に努力を重ね、次年度より高い評価が出るように学校運営を強化していきたい。

本校では数年前から、学校評価を行ないその結果を教職員に発表し、改善箇所を確認して来た。平成20年度より学校評価が文科省の指導のもとに法制化されたことを重視し、組織的に取り組むこと、その精神を全職員に理解することからはじめ学校評価委員会を設けてその趣旨にそって取り組んでいく所存である。